

中学生の広島平和記念式典派遣などで論戦

私が所属している総務常任委員会審査が11日、12日と行われました。

私は旧師団長官舎改修、原子力防災対策、広島平和記念式典への中学生派遣問題、コミュニティプラザの長期個別施設計画の策定、移住定住対策等で発言しました。

このうち、旧師団長官舎改修問題では、建物に入るレストランについては、市民団体の代表等が心配しているとして、建物が文化財であることに配慮した対応を求めました。

広島平和記念式典への中学生派遣は昨年から8校の代表派遣へと縮小されました。2年目を前にして大事なことは昨年の広島派遣の総括、検証です。しかし、新型コロナウイルス対応などから、その作業は進んでいません。

私は、「代表を送らなかった学校で、自分たちの学校から代表を送り込んだときと同じレベルのことをやれたかやれなかったかは、今後8人でいいのかどうかを検証する決定的なポイントだ。その作業は絶対やるべきだ」と主張しました。そして、「新年度の派遣は8月だ。まだ

時間はある。それまでに検証し、やはり24人だということになれば6月に補正予算を出してください」と訴えました。

13区のコミュニティプラザは「公の施設」であり、総合事務所と一体のところが多々です。

私からは、「コミュニティプラザは公の施設であり、令和12年までの長期個別施設計画づくりが義務づけられているはず。どこまで進んだか」と質問しました。担当課長は、「まだ完成していない。他の施設と足並みは同じ、令和2年度、個別の施設計画をまとめることにしている。いまの考えではすべて残っている考え方で準備を進めている」と答弁しました。今後の計画づくりを注視していきたいと思います。

移住定住対策のひとつ、移住インフ



ルエンサーについては、新年度、新たなメンバーで継続することでした。私はこれまでのメンバーの活躍を評価したうえで、「もう少し頑張ってみようとする人がいたとすれば、継続してもらおうことがあっていいと思う。できれば市民との間で双方向の集いみたいなものを作り、移住定住につながるような知恵と力の結集をした方がいい。そうでないのもったいない」と訴えました。他の委員からも同種の発言があり、担当課長は検討を約束しました。



【写真家・橋本紘二さん、亡くなる】月刊誌「現代農業」などで活躍されていた橋本紘二さんがこのほど亡くなりました。上越市には取材で何度か来ていただきました。写真は40年ほど前の新潟市での「牛乳まつり」。マイクを持っているのは私です。橋本さん撮影。

消費税大増税による打撃に新型コロナウイルス感染症による打撃も加わって、深刻な大不況に。日本共産党はこのほど「国民生活の緊急防衛、家計・中小企業への強力な支援を」という提言を発表しました。これを受け14日、私は、マイクを持って街頭からこの提言を宣伝しました。



緊急経済提言で街頭宣伝



【ミツマタ】再掲。ジンチョウゲ科の落葉低木です。漢字で「三桠」と書きます。いま花時を迎えています。三つ叉にわかれた枝の先っぽに黄色い花が咲いています。花言葉は「強靱」「壮健」。写真は吉川区代石にて10日、撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1952 2020.3.22

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五九九回

三月の尾神岳

先日の午後、思い立って尾神岳に行ってきました。尾神岳に登って気分転換してこようと思ったのです。この日は少し寒かったものの、青空が広がっていました。

尾神岳の姿は毎日のように写真に撮っていますので、今年は雪が極端に少ないことはわかっていました。でも、道路の雪が完全に解けているかどうか少し不安でした。まあ、行けるところまで行ってみよう、そう思って車で道を上り始めました。

見晴荘を過ぎ、キャンプ場を過ぎてても見えます。旧第一キャンプ場の高さでも確認できませんでした。路面はもちろん、道路脇にも雪はありませんでした。ようやく道路脇などに雪が見えたのは、パノラマハウスへ上る道の少し手前のカーブのところへ行つてからでした。

パノラマハウスの駐車場に着いたのは午後三時一五分頃でした。車から降りて最初に目に入ったのは、長野県との県境にある一千級級の山々です。すでに雪解けが始まり、黒と白の山肌は大島の菅蒲高原から板倉の光ヶ原あたりまでずっと続いていました。時どき南風が吹いてきましたが、けっこう冷たかったですね。

何枚かの写真を撮ってから展望台のある山側を見ると、山の木々が赤くなっているところ、黄色くなっているところがありました。すでに芽吹き準備が始まっていたのでしよう。展望台では、その端にあるピンク色の布切れが風を受けてあおられていました。そして、展望台へと続く急な坂の遊歩道が目に入りました。そこには雪が残っていました。先客があったようで、雪の上を歩いた跡もありました。

私もその道を登って展望台を目指すことにしました。ゆっくりに登り始めたのですが、ハッキリを超える体重では長靴でも雪に埋まります。長靴の中に少し雪が入ったの

ですが、「そつえば、今年の冬は雪に埋まるような道を歩いたことはなかったな」と懐かしさにも似た思いにひたりました。

遊歩道のまわりはツバキの木とヤマ竹が生い茂っています。雪道は二〇センチほどで終わり、あとは土が出ていました。正直言うと、スミシなどいくつかの野の花との出合いがあるかも知れないと期待していたのですが、そういう展開にはなりませんでした。五〇センチ以上に登って、斜め横につくられた遊歩道と一緒になるあたりで、ようやくフキノトウと出合いました。

展望台の少し前で再び雪道。今度は長靴にごそつと雪が入りました。木の枝にばかり、長靴を逆さにして雪を出したのですが、長靴の中は少し濡れてしまいました。

「わー、これはすごいや」と思ったのは展望台のらせん階段を上っているときでした。南魚沼の山々が真っ白になって輝いていたからです。展望台に上がってカメラを取り出し、何枚も撮影しました。魚沼の山々の左手前には刈羽の黒姫山があり、さらにその前には兜巾山があります。それぞれ、山の色合いが違い、見事な景色をつくりだしていました。

展望台には強く、冷たい風が吹き上げていました。ブナ林の沢から雪の上をかけるように吹いて吹いてくるのです。アノラックを着ていって正解でした。

初めて登った三月の尾神岳。楽しみにしていた野の花で見る事ができたのは、フキノトウとマンサクだけでした。そのかわり、魚沼の山々の白い絶景と初めて出合い、初めて見る野の花と同じくらいの喜びにひたる事ができました。

尾神岳は吉川区のシンボルで、標高七五七メートル。長年、ふもとに住んでいましたから、私にとってはふるさとそのものです。これからも登り続けたいと思います。

おもいやり駐車場が改修へ



新年度一般会計予算にはユニバーサルデザイン対応改修工事として、木田第一庁舎東側の「おもいやり駐車場」の設計業務委託料が計上されています。

先日の総務常任委員会で、この必要性、動機について質問があり、市の担当課長は「12月に一般質問があった。傾斜があり、雨にぬれる」と答えていました。その質問者というのは日本共産党議員団の橋本正幸議員です。よかった、よかった。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月11日(水)	3月18日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.057	0.043
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.047	0.057
名立分遣所	0.053	0.057

観音像？



大島区岡地内でビラ配布の時に会った観音像(?)。像は明らかに女性の姿です。やさしい表情がいいですね。この写真を見て、「赤ちゃんを抱いているのでは」という人もいました。左上には「百十八番」という文字が見えます。